



キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程

2022 年度 学校関係者評価報告書

(基準日2023年3月31日)



学校法人 大阪創都学園

「職業実践専門課程」認定校

キャットミュージックカレッジ専門学校

学校関係者評価委員会 議事録

■開 催 日 2023 年 09 月 13 日(水)

■開催時間 9:30～11:00

■開催場所 キャットミュージックカレッジ専門学校 学生会館 303

■出 席 者

三原淑治 エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役 ※委員長

高橋国明 株式会社 白竜社 取締役 第6期生 ※副委員長

石井博章 サニーストンホテル 代表取締役社長

東龍太郎 科学技術学園高等学校 通信課程大阪分室長

美根宏史（学校長）

白藤浩史（教務副主任）

太田一行（教務副課長）

城将敏（学校法人大阪創都学園事務長）

○校長挨拶

■学校関係者評価委員の任期について

平素は本校の教育活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

はじめに、今年度より委員の変更がございますので、本委員会の参加者を改めて確認させていただきます。地域関係者の代表として今年度よりサニーストンホテル石井様に参加いただいております。委員の皆様には同意書と会社承諾書に署名と捺印をお願いいたします。なお、次の任期につきましては、令和7年3月末日までの2年間となっております。よろしくお願いいたします。

○キャットミュージックカレッジ専門学校 2022年度自己評価における評価項目の達成及び取組状況

■進級率の向上

進級率については前年度とほぼ同水準となっている。個別のケアが必要な学生の入学者が増えている傾向があり、より一層の個別の状況把握に注力していきたい。

■出席率と学生状況の把握

授業への出席率に関して、昨年度対比で2年生はわずかに上昇、1年生は下降という結果となった。各専攻の担任が主体となり、個別の状況を踏まえて保護者とも連携を取りながら指導にあたっている。今後も定期的な学生面談は基より、個別の学生の状態に気を配り、状況の把握に努めていきたい。

■就職率の向上

就職希望者に占める就職者の割合は、前年度に比べて各学科とも良化する結果となっている。新型コロナウイルスの影響も落ち着きを見せ始めており、求人票受領件数も昨年度と比べて大きく増加が見られた。業界就職を希望する学生はおおむね進路を決定することができたが、就職活動を継続しながら卒業した者には、卒業後も継続してサポートを行う。

○自己評価報告書実施概要についての説明

- ・昨年にに関する自己評価報告書を精査、特筆すべき内容を説明

学校運営

2-12 教育活動に関する情報公開が適切になされているか(自己評価4/変更なし)

- ・WEB サイトのデザインがリニューアルされ、PC、スマートフォン、それぞれに最適化された形で情報が閲覧できるように公開されている。行事報告等の最新情報については WEB サイトだけでなく、各 SNS でも情報公開を行っている。

教育活動

3-17 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか(自己評価 3/変更なし)

- ・2023 年度 4 月入学生より全学科においてノート PC を教材として入学時に購入してもらっている。
エンタテインメント業界を含むビジネスシーンにおいて、様々な物事のデジタル化が進んでいるため、PC を活用するスキルを身に着けるべくカリキュラムの調整を進めている。
また、学内における AI の使用に関してのガイドラインを作成し、効果的、かつ安全に学生が AI を活用できるように準備を進めている。

3-27 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか(自己評価4/変更なし)

- ・2021 年度まではコロナの影響で行えなかった全体講師会を 2023 年 3 月に実施し、職員・講師向けに著作権に関するセミナーを実施した。セミナー内では学校内における対面授業、オンライン授業で著作物を扱う際の注意点や、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス等、著作権に課する新しい仕組みについてのレクチャーが行われた。

学習成果

4-32 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか(自己評価4/変更なし)

- ・業界で活躍する卒業生たちとは良好な関係を築いており、そのネットワーク構築を拡げている。彼らからの協力を得てセミナーやクリニック、特別授業の場を設け、在校生への学びの場を提供している。

学生支援

5-34 学生相談に関する体制は整備されているか(自己評価4/変更なし)

5-37 保護者と適切に連携しているか(自己評価4/変更なし)

- ・精神的な不調や人間関係の不適応を原因として登校できなくなるケースが増えつつある。担任による面談や保護者懇談を定期的 to 実施し、個別の状況に応じて指導を行える体制をとっているが、新入生の個別状況をできるだけ早く把握

するために、今後は入学してから授業が開始するまでの期間に保護者面談を実施することも検討している。

教育環境

6-42 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか
(自己評価4/変更なし)

・企業と連携した学外実習においては、実施状況がコロナ禍前の状況に戻つつあるが、海外研修においては実施を見送る状況が続いている。

財務/法令等の遵守

・貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書に沿って説明

社会貢献・地域貢献

10-58 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(自己評価3/変更なし)

・行事等においての学校校内の公開は行っている。なお、先述した関連スクール「キャットエンタテインメントスクール」の活動等を通じて、地域等への講座の開設などに取り組んでいきたい。

11-59 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか(自己評価3/変更なし)

・コロナの影響を脱しつつあり、オープンキャンパス等への参加も増えてきている。日本語学校への訪問や指定校推薦制度の導入などの準備を進めている。

○学科ごとの振り返り報告

総合学科

総合音楽

・指導方針をミュージシャン系に寄せていることもあり、ミュージシャン系の学生と交流の機会も増え、一緒に音楽活動を行う者が出ている。

＜学校関係者評価委員会からの意見の活用状況＞

ミュージシャン学科と同様

総合スタッフ専攻

・ほとんどが業界へ就職する事ができており、幅広く技術スタッフの分野を学んでいる特性が出ていると思う。イベントでの配信が増え、映像分野を学んでいることから映像スタッフとして活躍する機会が多く、たくさんの現場経験を積む事ができた。

＜学校関係者評価委員会からの意見の活用状況＞

音楽技術学科と同様

ミュージシャン学科

コロナの影響も落ち着き、学外での音楽活動も促進している状況を報告。

また、講師としての採用実績や、学外でのオーディションにおける実績についても報告を行った。

<学校関係者評価委員会からの意見の活用状況>

意見：学校の周辺地域である江坂近辺でストリートミュージシャンを見かけなくなったが、学生が学外で活動する機会を増やしていくべきではないか。

活用状況：2022 年度には商業施設でライブイベントを行った。コロナ規制緩和と共に、今後も学外でのイベント制作・出演を増やしていくよう検討している。また、2023 年度はステージ実習を地元ライブハウスで実施予定、学外で活動する機会を増やし、経験を積んでいくよう指導を行っている。

ダンス学科

在校生を含むチームがダンスの全国大会にて優勝した実績の報告やダンススタジオへの採用実績について報告を行った。

<学校関係者評価委員会からの意見の活用状況>

意見：行政も徐々に音楽フェスを立ち上げ始めているが、そういったイベントにも参加していくのが良いのではないか。

活用状況：外部企業のダンスイベントに観戦・出演する他、周辺地域イベントでのダンスショーケース出演など、行政イベントにも参加する計画を進めている。

音楽技術学科

前年度に比べて求人数が大きく増加している状況と業界企業への就職実績について報告を行った。

<学校関係者評価委員会からの意見の活用状況>

意見：留学生受け入れに関して海外との提携先を作るなど、環境整備を進めるべきである。

活用状況：特定の団体との提携は行っていないが、入学実績として日本語学校から入学するケースが多いので、日本語学校からの指定校推薦入学制度の整備などを行い、留学生に対しての間口を広げている。また、入学後の留学生に対しては、留学生交流会や、技術系の学内研修に積極的に参加するよう案内を行い、求人情報の共有も積極的に行うようにしている。

○その他、意見交換

高橋氏：コロナも収束しつつあるので、外国人アーティストによる特別授業を実施してはどうか

→以前と比べてタイトなスケジュールでの来日となるケースが増えているため、実施しにくい状況ではあるが、外国人アーティストのライブ鑑賞などを行事に組み込んで対応している。また、学生の音楽に対する趣向も変わってきているため、特別授業は学生のニーズと教育的価値を考慮して企画をしていきたい。

石井氏: コロナの状況は落ち着いてきているが、学生の就職への影響はどのようになっているのか

→コロナ禍において業界離れをした方が一定数いるため、若手を補充しようとする会社も多く見受けられる。結果として求人数は増加傾向にある。学生たちにとって進路を決めやすいタイミングといえるが、業界全体として人手不足である現在は求められるパフォーマンスも高くなっている。就職した先で仕事を継続していけるように、在学中から様々なスキルを磨く指導を行っていきたい。

東氏: 通信制高校では不登校や発達障害など個別の対応が必要な生徒の割合が増えている。個別のケアが必要な学生に対し、どのような対応をとっていくのか

→出願から入学までの段階で新入生の個別状況を確認することは難しい。入学決定後にできるだけ早いタイミングで保護者とも情報交換を行い、保護者と連携しながら状況に応じたケアに努めたい。

三原委員長: LGBT への対応はどのようになっているのか

→学生から申し出があった場合は個別の状況に応じて対応を行うが、配慮を行うということであり、特別扱いはいらない。基本的に戸籍上の性別を根拠として学校の公式書類発行や学籍処理を行っている。奨学金や就職にも関わるケースも考えられるので、保護者も含めて慎重に説明をした上で対応を行う。

東氏: 音楽業界以外への就職希望者への対応はどのようになっているのか

→音楽、エンタテインメント業界への進路を希望するものが大きな割合を占めているが、一般就職の希望者があれば個別に指導をして対応する。また、アーティスト活動に理解のある製造業や派遣業の会社からの求人もあるので、就職しながら音楽やダンスの活動を継続するケースも増えてきている。